

播磨巡覽記 全

特別
 ㄥ 3
 3617
 84



明和壬辰春新刊

播磨巡覽記

浪華書林

稱航堂
興文堂

壽梓

播磨先づりの紀

浪華 田原相常記

大坂より尾崎の三雲川舟をり

大仁村の舟をり。浦に村をりたふり

○海老に新舟をりたふり。○野里渡舟をり

○野里村八所堤。○佃田渡舟をり。○佃田村

尾崎入舟舟をり。舟官の式雲

津城を川舟をり。舟をり。大坂川舟の通路を

河ハ松島の山々此の美物の浦と云ふ。送檜松の

古伝と所の内あり

○東新田。東新田新田の間あり。た

つり。源氏と云ふ。八重子。た。信源。融と云ふ。つり。と云

六條河原院。此より潮を汲む。を。古伝なり。と云

け。よ。又。此。海。を。琴。浦。と。云。ふ。なり。

琴浦。不。朽。七。捨。た。る。山。松。は。多。し。く。波。は。つ。つ。り。なり。

○西新田村。武庫山。あり。右。の。右。あり。高。山。なり。

○六甲山。神呪寺。武庫山の腰。一むら。き。なり。と云ふ。

山。定。実。神。功。會。后。夫。教。追。治。の。は。甲。冑。と。云。ふ。は。め

あ。ひ。一。志。なる。山。の。名。と。す。は。之。○武庫川。支。流。

松。東。是。後。也。り。景。諸。之。樹。乃。不。飯。橋。と。云。ふ。なり。一。個。

右。後。中。と。云。ふ。水。知。は。なり。

武庫川。あり。と云ふ。め。ね。お。り。なり。と云ふ。は。月。の。比。

○押。照。官。武。庫。川。が。二。所。あり。た。お。り。と云ふ。は。松。を。と

孝。徳。天皇。大。化。二。年。十。二。月。の。日。湯。あり。是。年。の。時

石宮

後永任者に式里

武原のいさふさまりありあすと目下地ふさよりそを造
 鳴尾に執業屋としり。鳴尾の里日浦古多あり
 枝川尾端を壱里也。武原川の枝川之なる水は
 枝川業屋七津村よりありともあるに申里
 我市社有白洋殿右門のなを神悦見事十津
 左色を命へ。西支所を中やむは也。富家酒と
 遠所も名あり。津和沖。西支の海へ。宍川原

令津山浦の右打也の家白向り。畠山たり
 打も宿なるた少の太なるを也。打出渡日也
 け西の人より村いひ村の出入れ也。回着は
 大坂を東南よりあり。阿保親も打也村の里
 町。街屋の右よりあり。親の津和沖にあり。系
 約平建立也。宮川が水は山川之。甚屋村
 け着ふ山水よりけてあり。車多し。津と有り。酒を
 志しけをす。人力と省て業を助。此功あり

石宮

五

○新屋川系 ○行田河川も川に流る細き流と
たう。水は流るる所。弘法大師の呪する所と云ふ。
夏は菅多し。行田村の入口なり。行田村。西宮が
是と云ふ里也。是より惣原佐倉中里。○山崎城跡
行田の西なり。中里の赤松由緒。婿男。佐徳判友記
實の跡城也。一雨なり。右平比小あく。左なり。○菅原
里。御乃右。山崎。中里。名所也。古赤多し。菅原居
任の古跡也。○後菜屋敷。○鶴塚。○乙光屋敷。○

後菜屋敷の古跡也。○佐倉川系。○東女塚。佐倉
川の西有。右なり。三筋平たへ。ちぬの男の塚なり。
○御影村。御乃右。名所也。山崎。佐倉。色と云ふ。
御影石。けり。中里。菅原。すて。け。色。と。云。ひ。ま。ま。
御目と云。惣名也。○菅原佐倉村の南西の流る
小松原と云。なり。

惣原佐倉 菅原村と云。 云原は三里
佐倉神社。祭礼。六月廿九日。御影。南西。御乃右。なり。

上り坂なり

○六

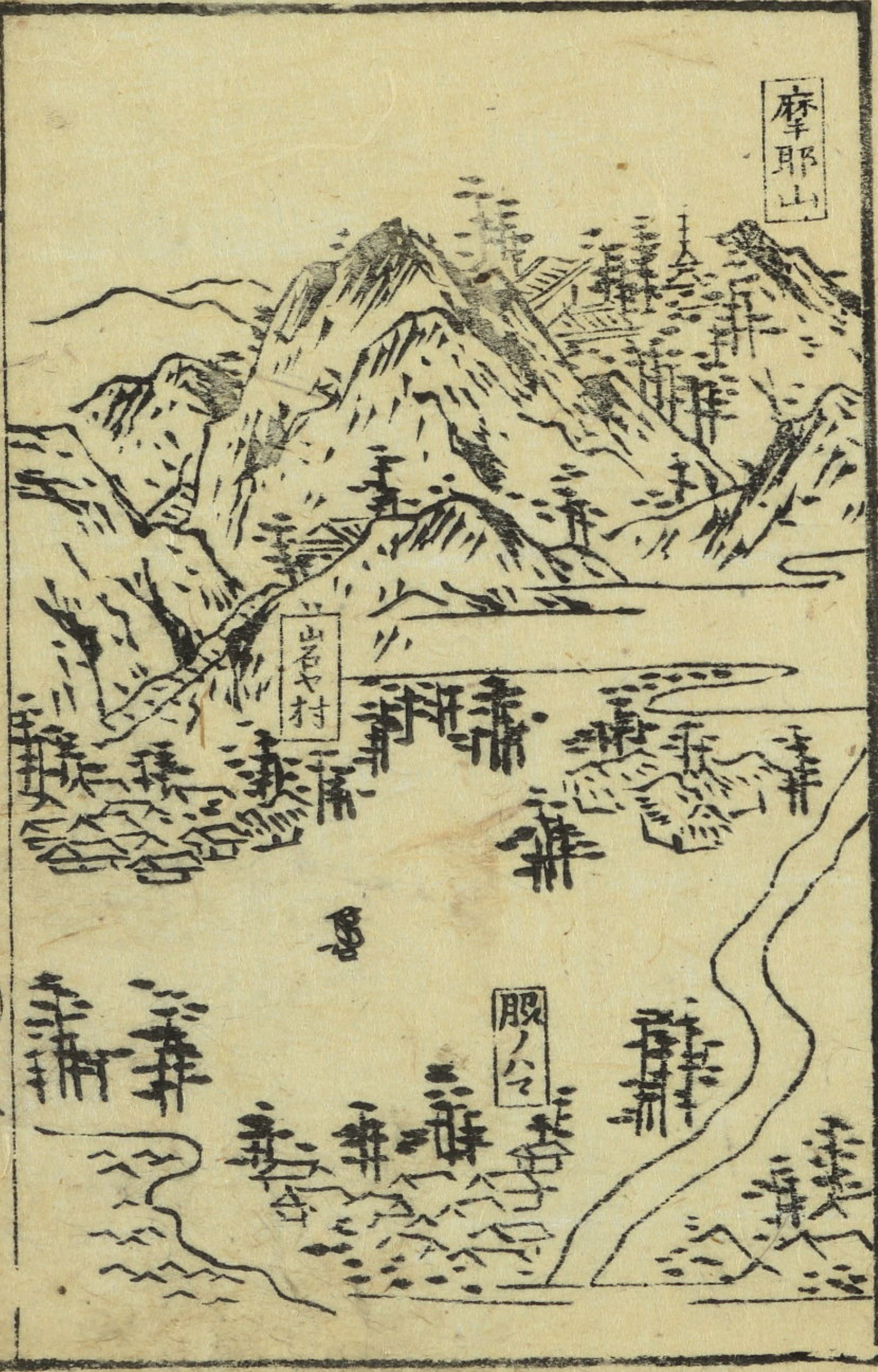
佐々村のせうきり。摩耶山にりたる又願溪の
せうきり。海にた記を○音信海にりて何
た海に離浦にりたる大村を古きあはる
離の場やま。若の原離離離。まはるさ
○石屋川。又石屋川よりあふり。○せう川。系
○求女塚。海にのたを青村のあはる。女の塚なり。
まごみごり村の東。海にのたあはる。むらう。男の塚に
新田系。求女塚をて。教の時。矢と防。六は。選

○みごり村。○みごり系。○離村。○願溪。海にのた
漢系。みごり村に海に造家。りり。○敏馬浦。じまごり
○敏馬神社。海にのた。漢系。者。○弓。海に。海に。海に。
村の。みごり。りり。○若屋村。け。みごり。摩耶。也。之
摩耶山。海に。山。と。平。河。館。毛。原。は。毛。原。也。
佛母摩耶山。切利。天。ま。ま。号。天。武。と。望。け。御。宇。
法道。他人の。系。割。ち。号。十。面。觀。者。秋。号。海。に。せ。あ。り。
号。海。に。と。り。ま。法。道。他人。が。胡。ぶ。海。に。と。あ。り。守。り。

摩耶山

○

高野山



高野山



高野山

○下向中尾村。熊内村とて生田川の東の堤へ出て
中尾村。毎年正月及び生田川に於て
秋に中尾に於て。熊内村に於て。秋に中尾に於て。熊内村に於て。
○布川の流
○熊内村。毎年正月及び生田川に於て
秋に中尾に於て。熊内村に於て。秋に中尾に於て。熊内村に於て。
○布川の流
○熊内村。毎年正月及び生田川に於て
秋に中尾に於て。熊内村に於て。秋に中尾に於て。熊内村に於て。

○熊内村。毎年正月及び生田川に於て
秋に中尾に於て。熊内村に於て。秋に中尾に於て。熊内村に於て。
○布川の流
○熊内村。毎年正月及び生田川に於て
秋に中尾に於て。熊内村に於て。秋に中尾に於て。熊内村に於て。

清盛は安海の流をふるふ折、天保のり。雷
鳴して、後平比之靈雷となりて、那波の二所を
教せりとする。ゆて後平比靈まつるに、
波六郎経後、これ流臺ふる事とのせり。異統なり

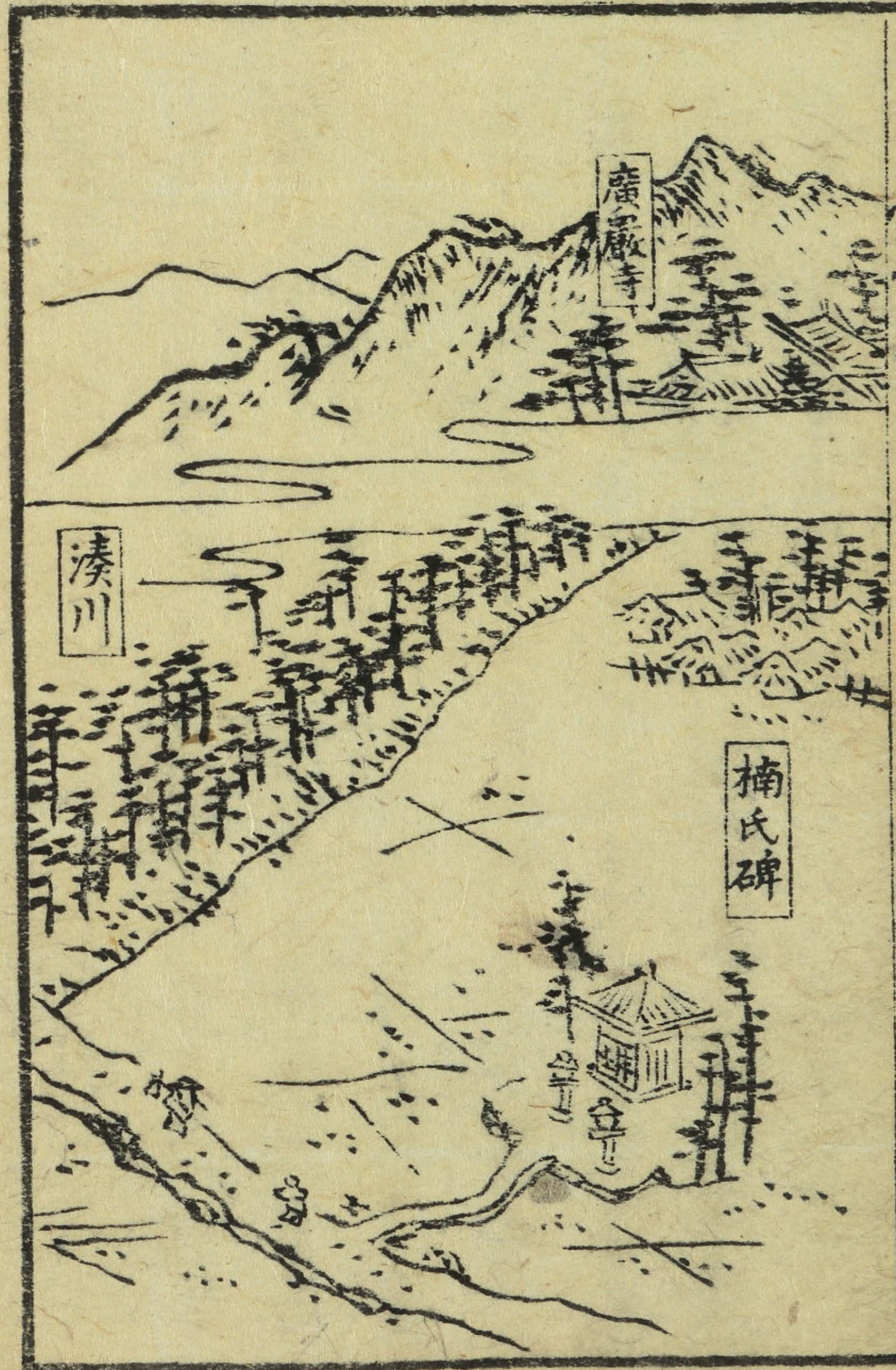
○まきより生國の社へたわり

○福井縣屋。○生國川系。河社よりあまふりり

○生國殿は山日川よりとをなちあふりり
信花 五郎十平

○生國神社。稚日書まつる。此れは八月十日なり。○
 麓の梅。境角まつる。この梅の並樹を、花は長く交りて
 近來りり。大景地。○社地の古後。○僧如法流
 系屋の古流わり

○川系足舟塚。○社地の中何だかりあり。○
 右、田井中、小松二村。塚のきり。○
 谷合殿。付死に。系家均治。○
 ○梶原井。中人云景時、あを結びて武田を頼り



○楠堂正成の石碑之。楠堂正成の碑は湊川より二町半
 あり。湊川の右。白田の沖にあり。むらさき。松林の
 二本ありけり。今も石碑あり。卯。正堂のまゝに
 あり。慶和の元禄六年壬申八月。水戸藩の石匠達
 あり。碑文字正成像の字。廣嚴寺より出づ。

▲醫王山廣嚴寺。右石碑より二町半。坂田村あり
 堤。碓氷川。建立す。岡山支那。徳の極。福師
 元禄元年七月。九月。自來。綱。り。の。有。福。寺。住持

高。一。也。り。

〇。一。

抄本

十三

後ふ此寺に用山より

宝物略記

多門天菩薩像

明極禪師像

正成軍冑像

正成衣冠像

日采帯像

日暮像

軍死園扇

徳像

正成衣冠の像

若深見許容り

付寺則楠の一旗

正成衣冠の古徳

○湊川浦原の川より。お家堤あり。松あり。

湊川を渡りて周をめぐりて湊川を渡りて

○湊山。湊川の川より。古徳あり。○雪見亭。古徳あり。湊

山ありとあり。平徳堂。雪見亭あり。

○養村。湊川の川より。村あり。むかしの關鎧形沙堂

の古徳あり。むかしの人をばけ世ふありぬ。ゆがふがうらふ

ゆがふ雪麻の女麻あり。こゝの雪不我背よおね

そりおほひらるるまじいひれを。北麻のつやう能

くはしむ。村人をふ射しぬ。はとんま。ゆがふ

ゆがふまるといひまば。お人おまふありて。男麻あり

抄本

十三

松尾重信

出向く事かひいけらばつがひあふ頼人あはれを
付く新なるをなりまよりつひにせよと
まよふ

○差方塚。荒田村の東山より一と今も示さるる

左の北。海軍口。多摩河原の新村を平相清隆の

嘗て一時的に條大納言は細朝臣の方地と定て宗神

ことと築くといふ。○平賀堂。地大納言山尾重信

澁川の上。ついで田村。○作比江。多摩河原の入口。海軍の板

橋の上。たがはのたがは

○橋のたがはのたがは。玉原村。今も住人

兵庫 橋列。多摩河原。福永。西須磨。式室

まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。まよふ。

○橋のたがはのたがは。玉原村。今も住人

○橋のたがはのたがは。玉原村。今も住人

○橋のたがはのたがは。玉原村。今も住人

○橋のたがはのたがは。玉原村。今も住人

松尾重信

〇十四

梅実の影刻像 ● 之が物像
梅実の影刻像 ● 之が物像
梅実の影刻像 ● 之が物像
梅実の影刻像 ● 之が物像
梅実の影刻像 ● 之が物像
梅実の影刻像 ● 之が物像
梅実の影刻像 ● 之が物像
梅実の影刻像 ● 之が物像
梅実の影刻像 ● 之が物像
梅実の影刻像 ● 之が物像

和国松 志光の心海乃の松の下流と近隣川と
和国松 志光の心海乃の松の下流と近隣川と
和国松 志光の心海乃の松の下流と近隣川と
和国松 志光の心海乃の松の下流と近隣川と
和国松 志光の心海乃の松の下流と近隣川と
和国松 志光の心海乃の松の下流と近隣川と
和国松 志光の心海乃の松の下流と近隣川と
和国松 志光の心海乃の松の下流と近隣川と
和国松 志光の心海乃の松の下流と近隣川と
和国松 志光の心海乃の松の下流と近隣川と

梅実の影刻像

十五

八幡宮

一七五

〇 八幡宮古後。〇 十とせ入江。法華の境は後之。古事多し。
 〇 八幡宮古後。〇 焼後寺古後。法華五燈念をり。西之
 〇 菅沼新古後。橋の市所もいふ。〇 牛間を矢の古後。
 和国橋より西へ之。小松東之。建武を市。新田里川の
 教ふ。中宮線甲部。重氏。を矢射。もる。古後之
 〇 和国橋。橋田を寺。云。厚の南。海中。此。厚色。入。古
 海。渡。之。大。和。田。の。浦。と。和。宮。小。保。り。〇 因。裏。海。流。義
 年中。福。平。の。教。の。古。後。之。田。河。中。方。築。地。の。流。今。八。松。林。と。

〇 巨教通山福蔵寺。用山仏地出作。中宮。新。也。又。珠
 菅。賢。たり。〇 右。を。云。厚。の。内。を。り

〇 云。厚。の。西。と。り。色。の。春。山。寺。の。及。を。永。田。川。永。田
 明。和。永。坂。浦。と。り。と。く。を。山。古。れ。喜。の。い。と。ゆ。之。及。遠
 明。石。より。也。厚。に。中。を。さ。り。を。さ。り。れ。と。り。

〇 平通聖塚。云。厚。より。西。十。町。半。海。乃。右。池。の
 境。小。松。之。中。り。り。教。死。の。西。之。〇 本。村。源。六。塚。古。日。水
 津。の。中。小。塚。を。柳。の本。之。里。人。を。海。み。と。い。と。海。邊。と

八幡宮

一七六

和泉



兵庫

築島寺

伴い本村は金澤としほ河の川と
ま○ま○ま河の下。ゆゑ乃南ま河。東尾尾村ま
千首小宮河ゆとてまてまくま月まなりまくまあま河
 ○長田村。ゆゑ乃南河のま。け村のま。ゆゑ乃南河のま
 のま。新中納言平知宗ま。け村のま。ゆゑ乃南河のま
 のま。新中納言平知宗ま。け村のま。ゆゑ乃南河のま
 神切里石新ま。け村のま。ゆゑ乃南河のま
 正河ま。ゆゑ乃南河のま。ゆゑ乃南河のま

ま。ゆゑ乃南河のま。ゆゑ乃南河のま
ま。ゆゑ乃南河のま。ゆゑ乃南河のま
ま。ゆゑ乃南河のま。ゆゑ乃南河のま
ま。ゆゑ乃南河のま。ゆゑ乃南河のま
ま。ゆゑ乃南河のま。ゆゑ乃南河のま
ま。ゆゑ乃南河のま。ゆゑ乃南河のま
ま。ゆゑ乃南河のま。ゆゑ乃南河のま
ま。ゆゑ乃南河のま。ゆゑ乃南河のま
ま。ゆゑ乃南河のま。ゆゑ乃南河のま
ま。ゆゑ乃南河のま。ゆゑ乃南河のま
ま。ゆゑ乃南河のま。ゆゑ乃南河のま

高尾山

十八

仍平既流の月を御一遊と○村の雲也源大
入に田畑の中ありなり高親者○松尾村の塔
鏡池も是も雲斗の田井畑村の○也源大
○光源氏屋敷也。也源大と。源大なるなり長若
屋敷ともいふ。重勸腰掛松。也源大の西とく右
の方あり。一本の松なり。○らり川。海女の川あり
西頭磨の
名石は之里
○上野山福祥寺。源大とくしり中を是なり。海女より

松尾村

西頭磨右の山之開山文鏡上人。中野聖觀音の源大
三層七折字。云摩の浦。相模の海中よりさきなる像と云
宝物
教皇像
結谷聖真像
善善像
三層七折字
云摩の浦
相模の海中
よりさきなる像と云

善善像

よらにさしをりてはくさきまの
善善像

善善像

二十

抄

緑なる松まきとせの松まきと久しきとや新の山風

なまわりのり雲流なり

敷笠甲冑 日赤旗名号 法徳上人の山系なり

なま名号まのひしていそふあり

喜来の世をすまて流れて流の道ふふ生ゆ

母衣名号 道生法師 さま名号とまくとあり

水すも 硯をかき出さる 八具足 河津院佛力

着本のさくられ制札 一極

此花は南無尊也 於三枝折 筆まき 任天永
紅毛を倒伐 一枝まき 二葉一拾

永永三年二月日

右の宝物百視をく 困法なり

○後の山すまけ色の山つぎとて古あり

○海竹 神切里石 紀あま松浦の海老 粘と釣あり

釣竿を付地極あり 木まきとて今ふとまきと云傳ふ

○義経腰掛松 ○持鏡 丹生山 回系 地村 妻まき

抄

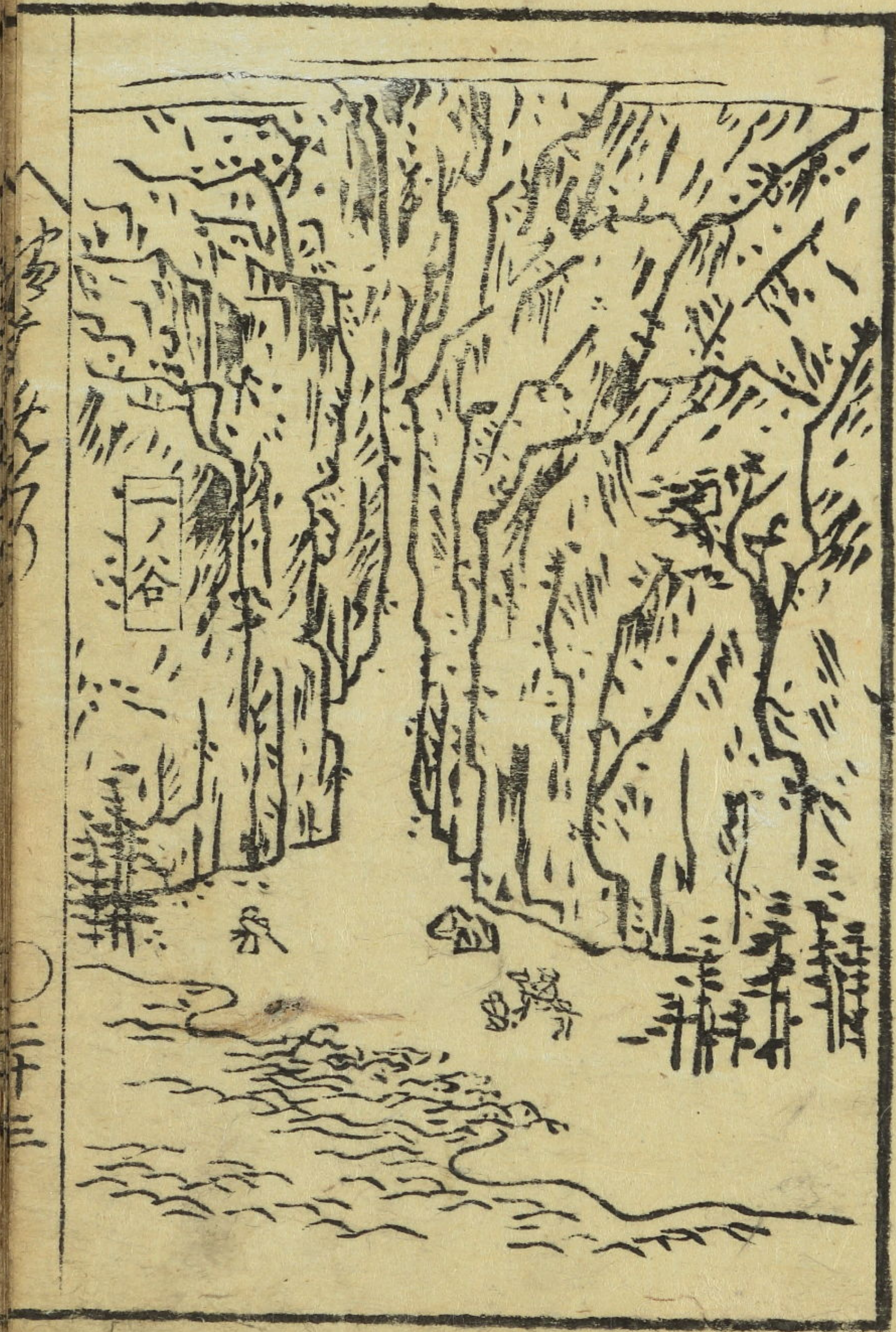
二

の種たねなりと。源平一谷合戦の時、源氏陣げんじじんに降くだりりて。その後、け須す廣ひろとす。余あま海うみせりと云い傳つたふ。○若木橋わぎのきしほ源氏相續げんじあいつぐふ。源平一谷合戦の時、源氏陣に降りて。その後、け須廣とす。余海せりと云傳ふ。○若木橋。本ほんの橋はし河かの架か道みち種たねと云いなり。け須廣けすひろなり。また定家さだけの命のみことと云いむ。世よの業わざを捨て、東海とうかいの園のぞ乃な須すつむんつむんと云いむ。古ふるあり。またけ須廣の橋はしを。是こゝの須す廣ひろの上うへに。すくけ須廣の山やまと云いなり。○須す廣ひろの園のぞ古ふる橋はし。すままたあまの命のみことの西にしに。川端かわはた

此こゝの言ことばと云いふ。源氏陣に降りて。須廣の山と云なり。○須廣の園古橋。すままたあまの命の西に。川端。此の言と云ふ。源氏陣に降りて。須廣の山と云なり。○須廣の園古橋。すままたあまの命の西に。川端。此の言と云ふ。源氏陣に降りて。須廣の山と云なり。○須廣の園古橋。すままたあまの命の西に。川端。

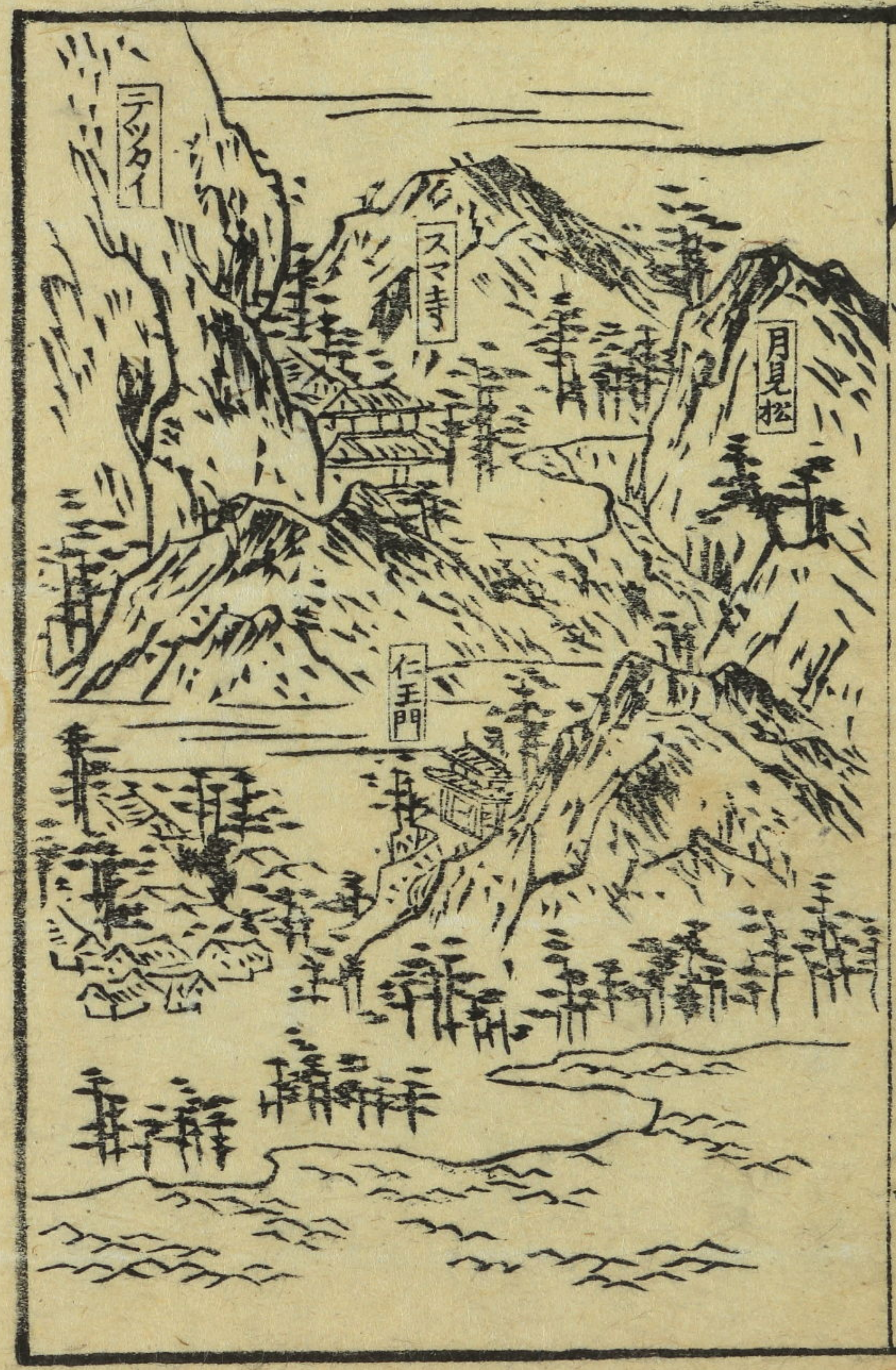
一井

二



一谷

三十三



スミ寺

仁王門

月見松

三十三

三十三

西へさの鴨城 後掲此中腹おやりあるひらき
ころあま。甚難前をゆへ。大島の羽の城と能ハ次
とるをそ。は名ありといふ。○内裏後。平三言。方。其
後。跡。より。赤。永。之。年。安。徳。之。年。遷。幸。ありし。空。居。の
何とあり。○二言。むき。六。七。前。所。幅。分。を。廿。九。間
浪打。際。まで。軍。間。斗。○二言。七。廿。二。所。所。幅。十。九。間。斗。
九。言。浪。打。際。まで。卒。ち。斗。は。言。の。を。折。伏。家。と
い。神。功。室。后。改。切。の。時。は。又。七。言。の。以。徳。軍。士。甲。を

伏せ風景と源や。地ふは名ありといひ傳ふなり
○教盛石塔。二言。あ。が。ぬ。ゆ。及。の。右。之。塔。の。を。そ。ま。ま。
老人。其。石。方。置。人。と。い。今。八。半。八。砂。不。埋。也。て。甚。石。を。金。
け。老。ま。く。岩。さ。つ。て。塔。さ。つ。り。教。り。り。み。の。分。り。と。云。傳。ふ。を。
なり。梅。人。思。女。の。い。か。ら。う。と。す。と。生。南。森。ら。り。け。老。ま。
利。永。年。中。源。平。の。古。戦。場。なり。也。と。い。ふ。事。
○境川。ゆ。及。の。川。系。と。橋。列。抜。列。の。さ。と。い。ひ。なり。
○塩。倉。村。○東。葉。の。村。は。十。分。一。里。是。か。の。時。久。成。り。

巻之二 九二
二十四

加古川

○日向大神社日向大神由良の石○淡路磯淡路磯はるるりたる
海と云ふ由り○海と云ふ由り○海と云ふ由り○海と云ふ由り

ついでについでにを源氏の浦や海は風のたもと磯山

○加古川加古川村○仲哀天皇塔仲哀天皇塔為意あのかんを造り

中河平切で右の方と云ふ○五色山五色山五色山左の塔より三

十有斗衣の方と云ふむし是仲哀天皇是仲哀天皇是仲哀天皇は塔の

幸いなりお持の石とお持の石とお持の石とお持の石と

是公今もして地中を毒りり毒どの毒どの毒どの毒どの

○加古川の鼻加古川の鼻山田村の土を○舞子溪舞子溪分二河平と云ふ

海原のた溪をさすむし海原の○舞子溪舞子溪山田村の

二河平と云ふ海原と云ふ海原の河平は松林の本多木本多河

青きり古よりきき一丈ふたはは風の吹向う方なる

砂の細なることありしむしむしむし又是より西を渡の

河の河海原と云ふ河原の河原の河原の河原の河原の河原の

絶景を知らず須須大明石須大明石須大明石

加古川加古川加古川加古川加古川加古川

加古川

松平定信

二二五

○山田村 ○大森谷 明所の入口なり。左を記すなり

○天神神社 大森谷松林の中なり。海防の右よりなり

養云左邊の時 陣長重信の時 養表とす 信と里人ふ

河之曲ひし古跡 在る社と建て今ふなり。其のまじり所と

既殿先主は文お兼し ○稲川社 大森谷左邊の右

側より ○所子八幡宮 其の右なり。社の名を記すごとが

河川の磯とすと云傳ふ ○人形神社 海防の所なり

左山邊の西名の所の入口 河城印屋敷所のくぐり也なり

由ら河り。はるふた入て老屋塚と ○人麿碑

寛文四年 甲辰孟冬 明石城に松平日向守源信之儀

建より。文を以て文学士林榮の撰之。碑文の写し一考なり

所社に南面也。坂の社に在る。社既分南海松岡ふとあり

なり。大塚塚と云人形社也。元年二月廿八日薨しあり

享保八年癸卯二月十日。千年忌の時。宣下あり。三位掃

本大明神と賜りあり。○月世寺 本寺 秋也。榮の妻

河津也。其の妻室也。高。○石屋塚 其の妻室也。河津と

河津也。其の妻室也。高。○石屋塚 其の妻室也。河津と

河津也。其の妻室也。高。○石屋塚 其の妻室也。河津と

松平定信

二二六

...
...
...
...
...
...
...

明石の大佛深田院^{あかしの大仏}誕生^{ひふし}を^に建^たてし^る碑^{いし}に^て文^{ぶん}の^中に
此^{こゝ}にお^まる^る故^{ゆゑ}なり。ま^まと^と名^なの^うで^で塚^{つか}今^{いま}ハ^は流^{りゅう}士^しの^裏
中^{なか}を^を示^しさ^うて^て塚^{つか}所^{ところ}とい^いふ。○[○]初^{はつ}顔^{がん}寺^じ明^あ石^しの^所あり
源^{げん}氏^し月^{つき}分^{ぶん}の^池は^は今^{いま}あり。光^{ひかり}源^{げん}氏^し死^しぬ^ぬの^時候^{とき}の^事は^は後^ごに
○[○]河^か城^{じょう}下^か町^{まち}あり。松^{まつ}昌^{しょう}の^寺○[○]河^かの^浦す^まと^と藤^{ふじ}子^こ
侯^{こう}の^所あり。後^ご人^{にん}を^を招^{まね}く。物^{もの}ぎ^りり^んと^と出^でる^るを^を
寺^じを^を断^つと^とむ^むの^名は^は河^か下^かを^を渡^{わた}る^るの^所なり。物^{もの}の^眺
望^{ぼう}と^とす^する^るは^は流^{りゅう}路^ろの^所あり。海^{うみ}と^とさ^さぐ^ぐる^るを^を示^しす^する^るの^所あり。

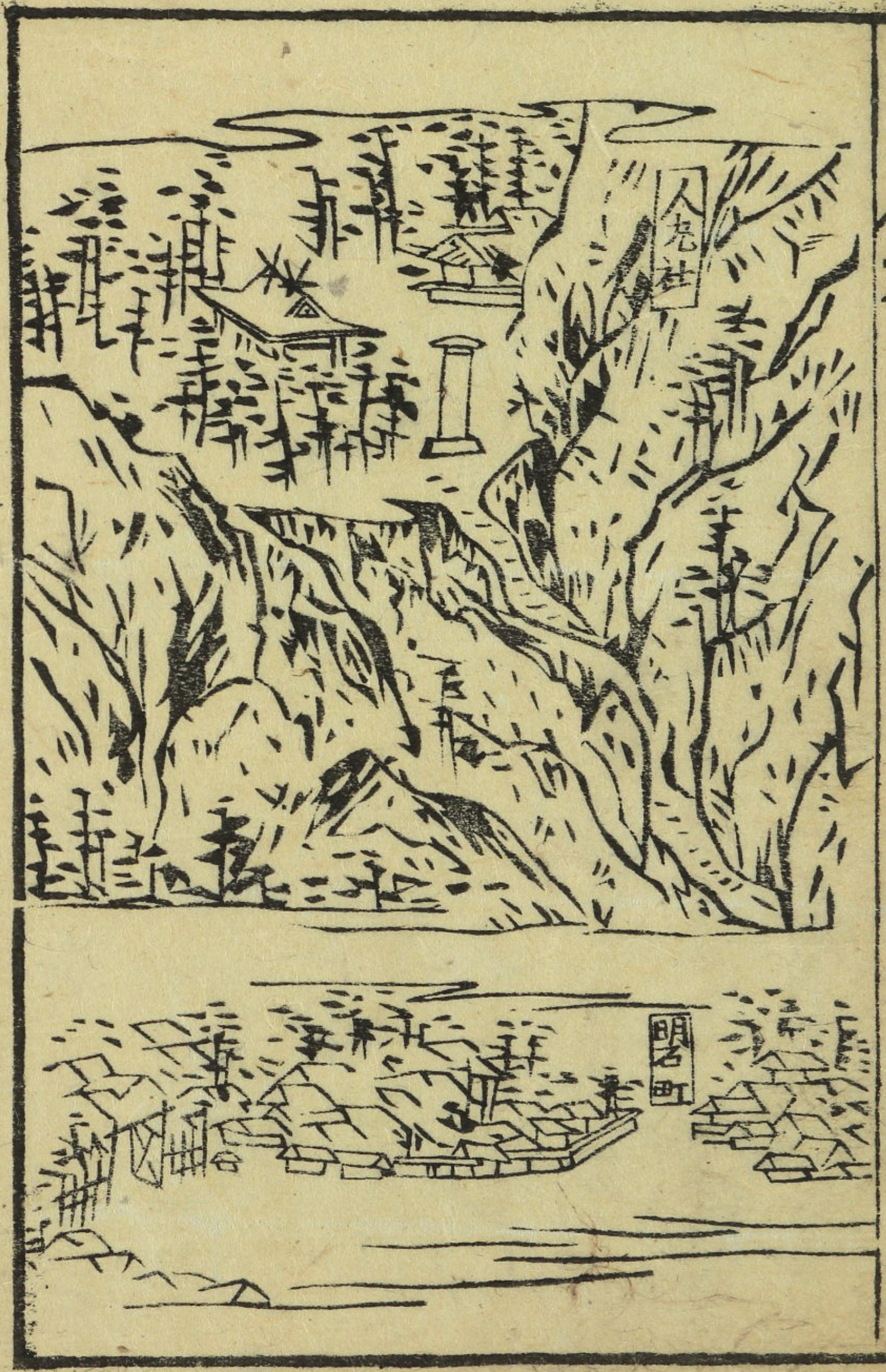


流路島

藤子侯

流路島

二十六



時をきくも多し。西と信を時。まこと西のほは甚を。いふ
 ともやうふもゆたなり。〇西の赤雲の二里。人此支の
 後よりなる。〇赤山寺。二里。西向。門より一所中入て石
 壇あり。中堂。南面。なる。美作業法。人其處と行る。小
 室。延り。△を。室の。又今。出
 乃り。あふ。〇赤井。板橋。橋。り。て。川
 中。侍。凡。中。腰。乃。年。地。り
 風景。〇脇村。〇。

〇二八

惣持大の神は社より播下るの神社と云ふ事あり
是より流す水と云ふは水の味も味も。情も流す
おび山此村里中とくく此水も流す。味も味も
まづ津山の腰より流す平地を流すと云ふ。出合川
是より平地に字と云ふは此二川の合合川より流す水
也。○林傍渠碑。此碑の字も其文は此水也。此
田畑の水の便りも此川に流す。此水も入。池の事も
此水も流す。此水も流す。此水も流す。此水も流す。

今町津也。此水も流す。此水も流す。此水も流す。此水も流す。
畑の水の便りも此川に流す。此水も入。池の事も
此水も流す。此水も流す。此水も流す。此水も流す。
右の春字も此水も流す。此水も流す。此水も流す。此水も流す。
○二見浦。里俗神也。此水も流す。此水も流す。此水も流す。此水も流す。
西之見村より。○大新所。旅店あり。○解板。板。○
小之保。大之保。新田。農田も。○大之保。旅店あり。
此水も流す。此水も流す。此水も流す。此水も流す。

此水も流す。此水も流す。此水も流す。此水も流す。

武里村の二里〇之新集倉一里塚あり
金ヶ湯〇東長池。西長池〇清の任音の神出結
金ヶ湯よりあると三平所あり〇清の川原〇中此
清の。中此の中。清の村の流なり。河原く川を
くまきと十所外中此。他は清の〇中此
清の。中此の石平と中此と。古の
中此の石平の石平
中此の石平の石平と中此と。古の
中此の石平の石平と中此と。古の

この中とみより中此の石平の石平と中此と。古の
中此の石平の石平と中此と。古の
中此の石平の石平と中此と。古の
中此の石平の石平と中此と。古の
中此の石平の石平と中此と。古の
中此の石平の石平と中此と。古の
中此の石平の石平と中此と。古の
中此の石平の石平と中此と。古の
中此の石平の石平と中此と。古の
中此の石平の石平と中此と。古の

中此の石平

三平

貞觀八年八月十日... 院... 則... 信...

▲此の地... 信...

此の地... 加古川... 平野... 新川...

加古川... 河... 里...

豆... 河... 里... 信...

此の地... 河... 里... 信...

此の地... 河... 里...

▲此の地... 河... 里... 信...

○此の地... 河... 里... 信...

是より刀... 河... 里... 信...

此の地... 河... 里...

刀... 河... 里... 信...

今と... 河... 里... 信...

此の地... 河... 里... 信...

此の地... 河... 里... 信...

此の地... 河... 里...

三十一

尾上村

尾上神社

石室殿のまじり

神社南向○尾上林は往來の松林に松多きなり

○尾上松林角あり○尾上橋。当社の御殿あり

○河東の中松。尾上林の西なり。石室殿あり。田畑の中あり。松あり此石あり

高砂 尾上より宇所。入石川を舟渡す。河の盡家の

高砂 尾上より宇所。入石川を舟渡す。河の盡家の

高砂 尾上より宇所。入石川を舟渡す。河の盡家の

○高砂神社。南向牛頭天を奉祀。高砂のこまあり

尾上とあり。仲秋九月十日○相生松。尾上

沖宮と高砂の町つとて。往來の便をさしむる

○荒井村。河井河あり。魚橋。大なる石あり

尾上あり。富家あり

尾上林と慶宮。南向松林を。寺あり。仲秋九月十日

○尾上松。社の右なり。葎云。尾上は。尾上の村あり

松あり。世宗寺。名木あり。寺あり。尾上の村あり

尾上村の石室殿。まじり。尾上の村あり

尾上村

尾上村

石室敷

石室敷

石室敷

石室敷

石室敷

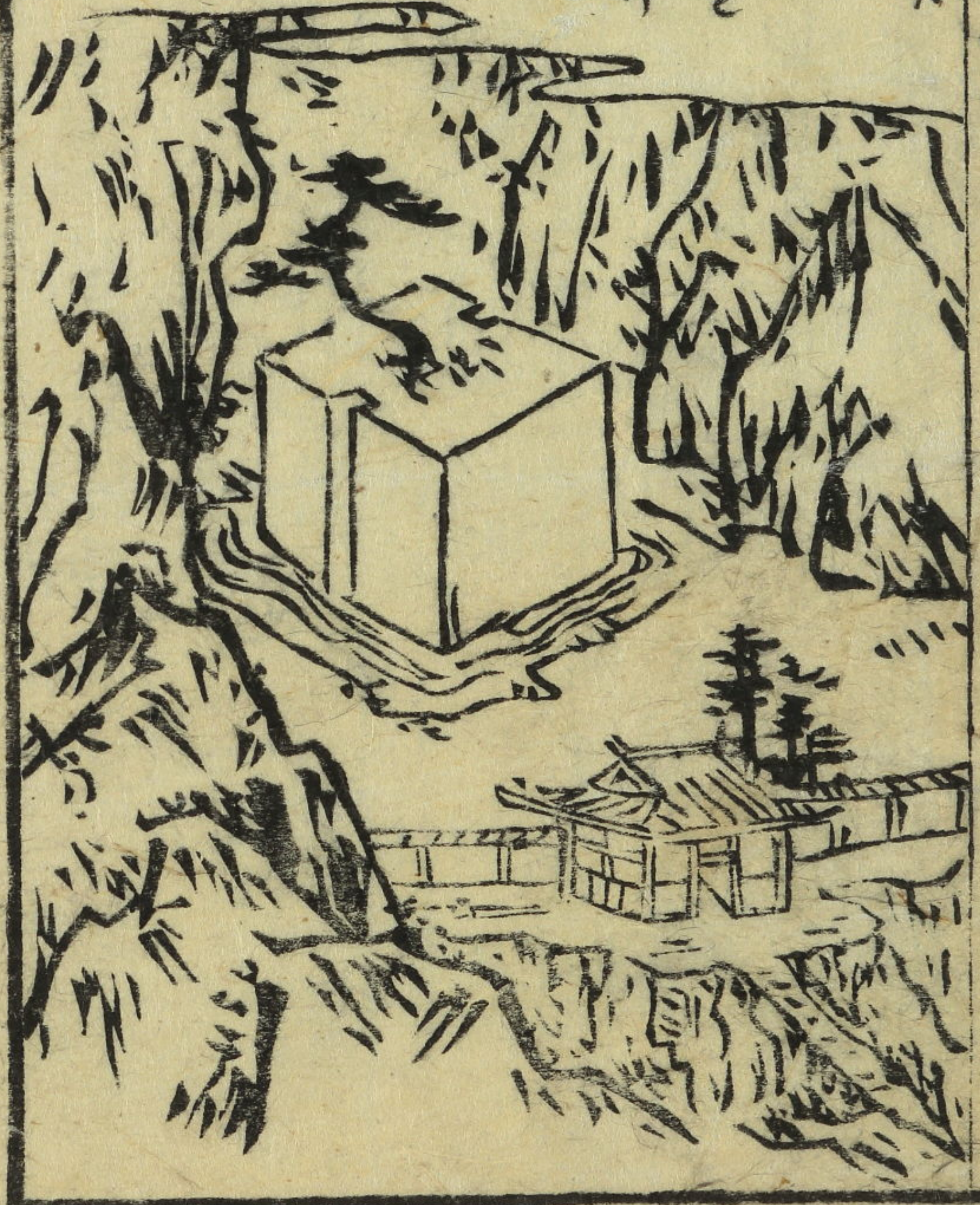
石室敷

石室敷

石室敷

石室敷

石室敷



石室敷

或、静寂と云ふ

中、南郡生石村あり

惟、此と度吉川の間の流石の中なり。○祀、神、生、石、村、に、在、り

大の神、生、石、村、に、在、り。△里、人、云、古、く、大、神、を、奉、り、て、今、大、神、を、奉、り、て

お、ま、り、中、に、お、ま、り、生、石、村、に、在、り。△里、人、云、古、く、大、神、を、奉、り、て、今、大、神、を、奉、り、て

大の神、お、ま、り、生、石、村、に、在、り。△里、人、云、古、く、大、神、を、奉、り、て、今、大、神、を、奉、り、て

切、ぬ、き、二、夜、の、お、ま、り、大、神、の、室、敷、と、造、り、あり、ま、り、ま、り、二、神

何、の、室、の、府、大、神、を、奉、り、て、石、室、敷、と、造、り、あり、ま、り、ま、り、二、神

押、記、し、ま、り、及、び、す、り、て、ま、り、の、中、に、大、神、を、奉、り、て、今、大、神、を、奉、り、て

の...病を療ずる方と定め給ひたまは...
とめ劣を...おま...の法とさめあす...
此社より牛...守り札出...

おま...の...先...
○新山。石室...
と...に...
か...
○中筋村。...
○山脇村。市川...
○東...
○元市...
熱社大...
地...
○新山...
か...
○中筋村...
○山脇村...
○東...
○元市...
熱社大...
地...

○新山。石室...
と...に...
か...
○中筋村...
○山脇村...
○東...
○元市...

か...
○中筋村...
○山脇村...
○東...
○元市...

か...
○中筋村...
○山脇村...
○東...
○元市...

か...
○中筋村...
○山脇村...
○東...
○元市...

か...
○中筋村...
○山脇村...
○東...
○元市...

か...
○中筋村...
○山脇村...
○東...
○元市...

か...
○中筋村...
○山脇村...
○東...
○元市...

○辻井村。六井松。旅店あり。○みづら川系。○東
坂。旅店あり。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。
○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。
○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。
○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。
○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。
○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。
○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。
○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。○尾能阿。

書寫山園教寺

女人堂。寺よりあり。薬店ありを
仁王門。寺よりあり。ありあり坂。下はと敷所なり
是より松林生れて日光寺なり。昔書山園と
るの所なり。徳川将軍の霊場なり
親善堂。堂十箇面あり。西園順礼堂。下は書札堂
堂のおき。薬店あり。石橋あり。堂あり。たて中堂あり。
中堂。寺よりあり。園教寺の六井松。額。朝鮮。吉野。寺。堂。
御影堂。寺あり。性老上人像あり。

揚子山（揚子山） 隨願寺 寺あり 宇所

此寺（此寺） 素直（素直） 弟（弟） 昭立（昭立） 兄弟（兄弟） 乃（乃） 天子（天子） 親（親） 著（著） けし（けし） 山（山） の（の） 園（園）
基（基） 約（約） 基（基） 大（大） 佛（佛） 心（心） 作（作） 之（之） ○ 眞（眞） 院（院） 約（約） 基（基） 善（善） 薩（薩） 像（像）

○ 揚（揚） 子（子） 山（山） より 唐（唐） 峯（峯） 入（入） 中（中） 里（里） 寺（寺） あり 宇（宇） の（の） 麓（麓） 依（依） 之（之） 小（小）
由（由） 之（之） 寺（寺） 難（難） 下（下） 亦（亦） あり 法（法）

唐（唐） 峯（峯） 勝（勝） 唐（唐） 郡（郡） 揚（揚） 子（子） の（の） 山（山） あり 寺（寺） あり

此（此） 寺（寺） 素（素） 直（直） 弟（弟） 昭（昭） 立（立） 弟（弟） 昭（昭） 立（立） 乃（乃） 天子（天子） 親（親） 著（著） けし（けし） 山（山） の（の） 園（園）
此（此） 寺（寺） 素（素） 直（直） 弟（弟） 昭（昭） 立（立） 弟（弟） 昭（昭） 立（立） 乃（乃） 天子（天子） 親（親） 著（著） けし（けし） 山（山） の（の） 園（園）

法（法） 華（華） 山（山） 二（二） 來（來） 寺（寺） 始（始） 始（始） より 聖（聖） 乃（乃） 三（三） 聖（聖） 寺（寺） あり 聖（聖） 乃（乃） 三（三） 聖（聖） 寺（寺） あり 聖（聖） 乃（乃） 三（三） 聖（聖） 寺（寺） あり

法（法） 華（華） 山（山） 二（二） 來（來） 寺（寺）

中（中） 堂（堂） 十（十） 間（間） 置（置） あり 乃（乃） 聖（聖） 乃（乃） 三（三） 聖（聖） 寺（寺） あり 法（法） 乃（乃） 仙（仙） 人（人） 因（因） 基（基）
天（天） 乃（乃） 宗（宗） 乃（乃） 聖（聖） 乃（乃） 三（三） 聖（聖） 寺（寺） あり 法（法） 乃（乃） 仙（仙） 人（人） 因（因） 基（基）

眞（眞） 院（院） 因（因） 山（山） 堂（堂） あり
○ 法（法） 乃（乃） 仙（仙） 人（人） 因（因） 基（基） 十（十） 間（間） 置（置） あり 乃（乃） 聖（聖） 乃（乃） 三（三） 聖（聖） 寺（寺） あり 法（法） 乃（乃） 仙（仙） 人（人） 因（因） 基（基）

法（法） 乃（乃） 仙（仙） 人（人） 因（因） 基（基）

法（法） 乃（乃） 仙（仙） 人（人） 因（因） 基（基）

○また法花より清水八里あり

○清水八里あり武里十里あり

ゆりたけは久里あり

法花の清水への道程

法花の 久里武里 久里武里 武里

武里の 久里武里 武里

武里の 久里武里 武里

武里の 久里武里 武里

武里の 久里武里 武里

清水の 久里武里 武里 久里武里 武里 久里武里 武里 久里武里 武里 久里武里 武里 久里武里 武里

清水の 久里武里 武里

二七七

○丹生崗 御原を平家平し。法花よりある人出
た。たはまも軍平をまも。此よりわが。不自由
をゆめり。

姫路よりある人出の古法

八家法派 姫路よりある海傍

八家法派 中井平斗れは像

嘗て風波をげく海をきては石像を海平くお
入るがそはは像をげくは像を打つてと云人石像

を佛と安んず。まはと也は佛と石と好まをて
わくは海石の石はうへきと供を寺の石も佛
もふりまも病人は石を佛と。あま持入り。病を摩
進け病平人をすと。石を延。まの付まも印の石を
延く供をるなり。○此法より。牛海出雲を印
九列眼あるもの風景のまも。延く法派を延く。付
延する業を延く。まも。海を延く。介のりてまも
勝磨海 姫路の南を延く。海を延く。魚塚の利り

一書...

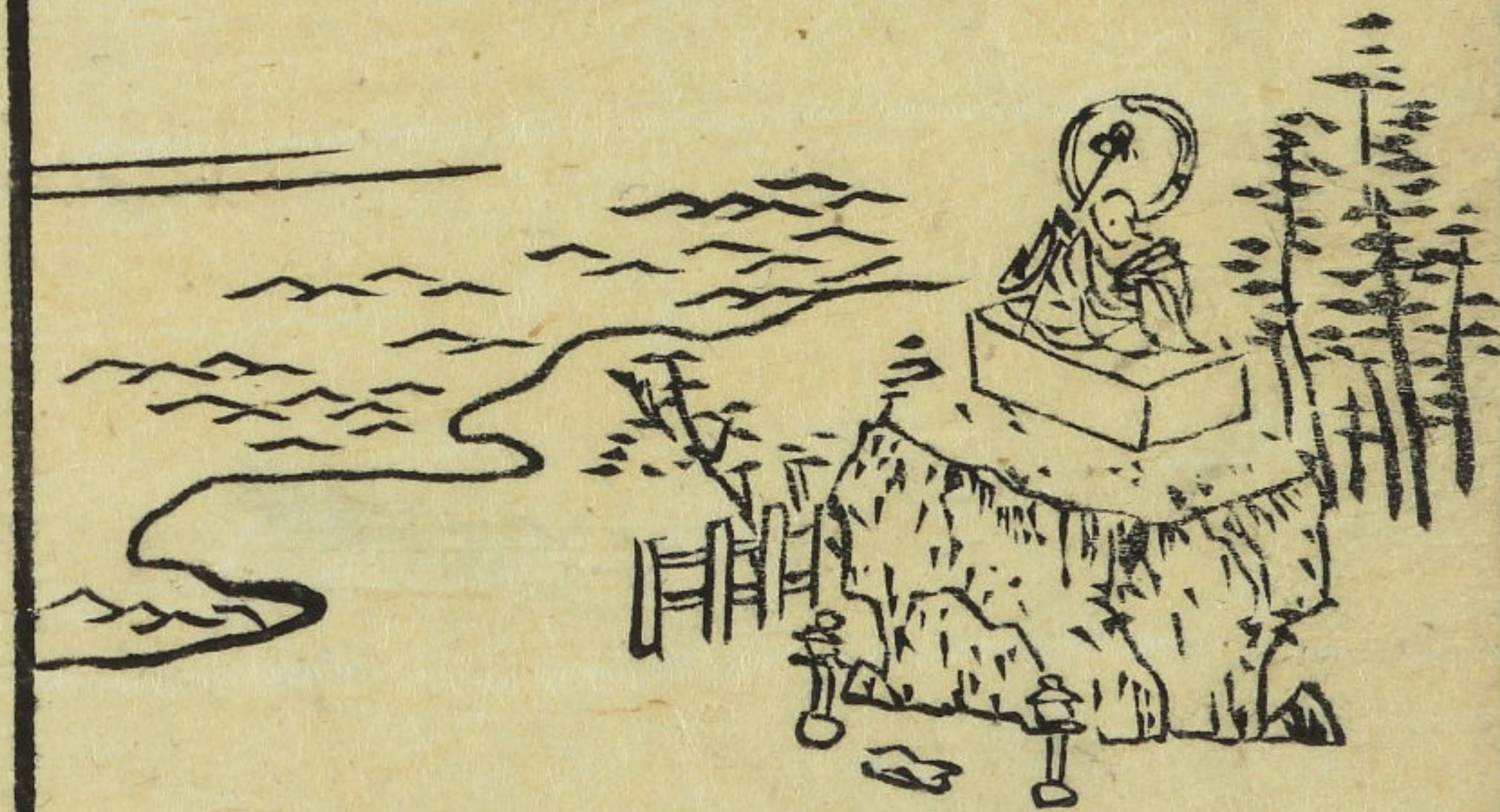
双 双



...

双

八家地藏



...



...

...

津西の細江古あり。今ハ津西と細江所と

細江 姫路より二里。南ハ船浦あり

新門寺 細江の角 隆宗 盤陸 禪師 開基 雲塔

津西 津西の地あり

宝津 姫路より五里。細江より二里あり。船

浦の船着き場なり。津西の地あり

○加茂津社 室の神と稱し。古くあり

○船津 室の神あり。○新門寺 開基

熊 姫路より西五里。熊鷹寺 古くあり

推古天皇より聖徳太子末布部 あり。地あり。名は

はちを建平にていなり。寺あり。親世あり

新門 姫路より西

赤穂 姫路より九里

別府 尾上ハ十所。船津。是ハ天神也。社あり。松あり

播磨廻り

つらき道はみかた所とあり。まこと雅風をよめる世に
見ゆすべし

一 倉庫より大坂へむき松竹の材をか。薪をこし出す也。

大坂ゆき此よりおきつるも一

一 藩中すごとく主人の立派など。そのまゝおき出すゆふ。

おぼ緒なきまゝ。箱てきるとごころのし。別ふ

意心あるをて。中書とらう。ひそ考あふ。いしは

いしは。いしは。人。いし

一 此書は只海程の事をとあるもの。且らうめて

ゆく人の及志久おすと。おきあををいふ。り程のを

進を。い。く。ち。ん。お。い。し。て。遠。く。あ。を。を。

一 凡番中。小川系といひ。川系とてあり。といは

皆山川也。而は中を大あり。といは

一 乃の石屋のたを。いし。大坂より。いし。人。お。き。つ。る。

明和第九壬辰春三月吉且

文化四丁卯正月吉且

順慶町心齊橋東入

柏原屋與左衛門

大坂書林

心齊橋通南久宝寺町

塩屋平助

高橋興文堂藏書目錄

大坂書林

塩屋平助

和漢朗詠集

壺流水抄等

全二冊

和漢朗詠集

近湯流

全二冊

賀章堂文集

長玄海堂等

全

假名附消息

和等

全

必要書札

和等

全

分限書札

日 等 又其の上下の格式之分 全

常用消息

日 等 日く夜書とる所の文章之 全

雜要章

日 等 日香膳付に與從書小集之 全

一 年 帖

日 等 一 年中の文書之紙文入 全

高賣往來

日 等 紙文入 全

御家庭訓往來

日 等 紙文入 全

年中かるゑ

日 等 形の中 一冊 三十六体のらじしと

世話千字文

日 等 紙文入 全

御家百人首

日 等 百体のらじしと 全

歳時文章

日 等 日附の文章に用ひたるもの 全

新書子往來品 全

大冊小冊小流のるに付を思ふ所 久美入の紙板をてし出来 全

御家用之状第 全

御家文通一境 全

至宝用文章類

首年 後入

初心用文章

三ツ切 懐中本

至宝用文章選初

首年 後入

名人取引状

小本 全

海内要聞 文通下書

文通流 中本

名人書状文庫

中本 全

續文通下書

下年

文藝名聞集

全

懐中獨集

三ツ切本 志を定ま の為也

雅俗名聞自在袋

用文書 大冊 全

善学重寶紀

全懐宝早字引

三ツ切本 引

御家流

新增用文章道

全一冊

初心日用の久遠と旧季にさうらひのい
な形流又み文伴上下と手分と外書
画法歌並流をたふと家成家の故
実法礼式をさうらひと書し出
まことと初巻を重宝の事と

新撰

都會節用百家通

全一冊

此書ハ字畫訓書の得りとたし又法歌
並流百家流技のさう実和流の通
法示の名目日用肝要手札と言民故
実と流しと大巻礼書の大意とさう
大と情書といふ事あり

親世流

萬歳小調昇平樂

全一冊

内外二百番小調升平と能程を親
世流と故実といふと松まふ付
ホムとさうらひといふと松まふ付
大扱入用といふと松まふ付
初心とさうらひといふと松まふ付

貳百番

系道早合点

全二册

系乃よむざん書け書とてんたまらば
さうらんしてとて書とて極うとて

近代世事

全五册

凡天地より由る人の夜後飲食を
忌め未とれく門部とさうらちり来歴
とさうくさういふ一とさうのまのらうと

女教文海智恵袋

全一册

高世の女用文書とてまうと集その外
婦人教訓法礼ホウ一とさう

皇都

植村藤右衛門

東都

須原茂兵衛

名古屋

片野東四郎

摄都

製本所 高橋平助梓

書舖

似雲和歌集類題

懐中本 全一册

和乃也初大令

け書ハ源氏いせとてお初とてさ遠徳の事を
け書ハ源氏いせとてお初とてさ遠徳の事を
け書ハ源氏いせとてお初とてさ遠徳の事を

源氏抄

け書ハ源氏抄とてお初とてさ遠徳の事を
け書ハ源氏抄とてお初とてさ遠徳の事を
け書ハ源氏抄とてお初とてさ遠徳の事を

文政元年戊寅九月發行

心齋橋通南久宝寺町

浪華書林

鹽屋平助 梓

